研修の特徴 放射線科

駒込病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

放射線治療 （新専門医制度）	プログラム責任者：放射線治療科　室伏　景子 プログラム期間：３～５年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャルティ領域「放射線治療」を研修し、放射線治療専門医を養成するプログラムです。

駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本 領域研修を行い、その 2 年目から連動研修として当プログラムでの放射線治療領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャルティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院、多摩総合医療センターで豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境のもと、幅 広い領域の腫瘍について、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで多数の症例を経験でき、満遍 なくバランスの取れた研修を行なうことが出来ます。

放射線診断	プログラム責任者：放射線診断科　高木　康伸 プログラム期間：３年

放射線科専門医は後期研修4年目で受験し、その後2年の研修を経て後期研修6年目に診断専門医を受験します。

東京都医師アカデミーでは3年の後期研修を行っており、その後さらに3年の研修を行い、放射線診断専門医の取得を目標とします。CT, MRI, RI（PET 含む）の検査指示から撮影の立ち合い、確認を行い読影までの全体を研修します。IVR（画像下治療）についてもTACEなどの血管造影やCTガイド下の穿刺手技を単独で行えることを目標として研修を行います。

また、担当領域を決めて院内のキャンサーボードにも参加します。
院内、科内のジュニアレジデントやシニアレジデントの指導も担当して、後輩の育成を通して自身の成長にもつなげてもらいます。

墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

放射線治療	プログラム責任者：放射線科（治療）　待鳥　裕美子 プログラム期間：３～５年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャルティ領域「放射線治療」を研修し、放射線治療専門医を養成するプログラムです「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その2年目から連動研修として当プログラムでの放射線治療領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャルティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院で豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境のもと、幅広い領域の腫瘍について、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで多数の症例を経験でき、満遍なくバランスの取れた研修を行なう事が出来ます。

研修の特徴 放射線科

墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

放射線診断 （新専門医制度）	プログラム責任者：放射線科（診断）　高橋　正道 プログラム期間：３～５年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャルティ領域「放射線診断」を研修し、放射線診断専門医を養成するプログラムです。

駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科」で放射線科基本領域研修を行い、その2年目から連動研修として当プログラムでの放射線診断領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャルティ領域の専門性を習得できます。

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

放射線治療	プログラム責任者：放射線科　泉　佐知子 プログラム期間：２年以上、５年以内

近年、がん治療における放射線治療の重要性は一段と高まり、2050年には治療患者数が2025年比で1.38倍に増加すると推計されています。高精度治療に関する施設基準では、放射線治療専門医の配置が必須となり、高度化する治療技術を担う専門医の需要は非常に大きい状況です。当院では年間700例以上の新患を受け入れ、150例超のIMRT･定位照射などの高精度治療、50例超の密封小線源治療を実施し、単施設でも専門医試験受験に必要な症例を十分に経験できます。

特に高度な技能を要する密封小線源治療では、多様なアプリケータや組織内照射を扱い、実践的な研修を通じて高い臨床能力を身につけることが可能です。さらに指導体制も充実しており、専門医取得を力強く後押しする環境が整っています。

放射線診断	プログラム責任者：放射線科　荒木　潤子 プログラム期間：２～５年

本コースは放射線診断医制度に則った研修の提供を目的とします。

多摩総合医療センターでは、悪性腫瘍や周産期、救急等の多岐に渡る症例の画像診断やIVRを施行しています。各分野の専門的知識と各科横断的な読影能力を習得し、かつ救急を含めた総合的なIVR技術を習得できます。

年間CT、MRI、核医学等合わせ5万件以上の画像検査に加え、マンモグラフィ、単純X線写真の検査、読影を行っています。腹部や甲状腺・乳腺超音波検査も検査科と協力して担当しており、IVRも年間300件強を施行しています。令和７年度よりPET-CTも始まりました。

日々の読影、臨床各科カンファレンスやdiscussion、CPC、画像カンファレスでの症例提示、種々のIVR、論文作成等を通して、各科を繋ぐ広い視野を持ち、放射線診断専門医取得に必要な能力、技術を総合的に身に付けられます。